

令和8年度 コミュニティ・スクール推進校事業 会議録

会議の名称	小学校学校運営協議会		
開催日時・公開等	令和8年	6月2日 ( 火 )	
会議の公開等	公開	(非公開理由)	
開催事前告知	令和8年	4月28日 ( 火 )	ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
開催後議事録等の周知	令和8年	6月5日 ( 金 )	ブログ等で広く地域に周知を行った
出席者	学校運営委員協議会会長 稲岡 真弓、副会長 鈴木 みどり、梅村 尚弘、岩淵 佳宏、市口 雅史 事務局:校長、教頭、首席 拡大学院運営協議会出席者:市議会議員 小池晶子氏、市議会議員 峠賢一氏 保護者 田儀 奈津子氏、南中振自治会 栗間 寿彦氏 枚方市教育委員会 教育指導課主幹 伊藤 良峰氏、上杉 泰大氏 児童:児童会代表2名、生活向上委員会から14名		
欠席者	0人		
案件名	・拡大学院運営協議会「第1回IMS会議(I make SADA!ミーティング)」 ・会議後の振り返りと今後に向けて		
提出された資料等の名称	資料① …第2回学校運営協議会 レジューメ 資料② …学校だより6月号		

会議内容

<p>拡大学院運営協議会を開催</p> <p>本校では、地域ぐるみで子どもたちを育てる「地域と共にある学校づくり」の根幹として、コミュニティスクールによる熟議(IMS会議)を行いました。今回は、従来の大人主導のテーマ設定ではなく、「子どもたち(生活向上委員会など)から出たリアルな課題」に大人も一緒になって向き合うという、極めて有意義な試みとなった。</p> <p>はじめの言葉(児童会代表)                  テーマ①あいさつがいつぱいの学校                  ②学校やものを大切にできる学校                  ③ろうかを走らない学校                  ④いじめのない学校</p> <p>個人で、テーマを選び、アイデアを出す。テーブルごとに交流。                  最後に、今日からできる「I make SADA!」を宣言して終わる。                  例えば、                  ②「学校やものを大切に」グループ                  子どもたちは「タブレット」「本」「ボール」「机・椅子」など、自分たちの身の回りにある具体的な「モノ」に強くフォーカスしていた。出された大量の意見に対し、ファシリテーター(教員)の促しによって「トイレのマナー・掃除」「教室の道具」「勉強(タブレット・本)」へと子どもたち自身の手で一生涯命仲間分け(グルーピング)を行った。                  最終的に「今日から自分ができること(ゴミを出さない、掃除道具を丁寧に扱う等)」にフォーカスを絞り、結論まで行った。大人の関わりとして「考え方を大切にするとラッキーが増える」「つくも神がいると思えばモノを雑に扱わない」といった概念的なヒントを提示し、子どもの心にアプローチを試みた。                  その他グループからは、                  4年生を中心とした子どもたちの中に大人が混ざり、横並びで一緒に考える環境が作られたことで、子ども自身が「自分でもこんなに思っていることが言葉にできると思わなかった」と驚くほど、思考が言語化される劇的な瞬間が見られたという感想があった。【その他、別添資料】</p> <p>◎学校運営委員からの意見等                  意識の高い子だけで終わらせない工夫が必要。                  今回参加した子どもたちは元々意識が高いため、本当にアプローチすべき「ルールを破ってしまう子」を巻き込む必要がある。                  大人からの押し付け(トップダウン)ではなく「ディベート」をクラス単位で「なぜ走ったらダメなのか」を徹底的に議論させ、子どもたち自身に納得させるプロセスが重要。                  「やらされ感」を排除し、ゲーム感覚を取り入れる挨拶やマナーを守ることを義務にするのではなく、スタンプラリーやシール、笑顔の交換など、子どもが楽しめる仕掛け(ゲーミフィケーション)を子ども自身のアイデアで創らせる。                  持続可能な「地域の仕組み」にする。教職員は異動するが、地域は変わらない。校長が変わっても学校の文化がブレないよう、コミュニティスクールが土台となって学校のファンやスポッポットのボランティアさだレンジャー(PTA枠に縛られない協力者)を増やす。</p> <p>◎めざす子ども像について(熟議)                  自分で問題を洗い出し、自ら解決する力(当事者意識)を持つ子ども                  目標(理想)と「今日自分ができること」のギャップを埋めるためのステップを自ら考え、行動に落とし込める姿。                  相手を思いやり、先に価値を与えられる子ども(ペイフォワード)                  挨拶などを通じて、他者への優しさを自発的に表現し、ウェルビーイング(みんなの幸福)に貢献できる姿。                  多様な学年や大人と関わり、自分の考えを堂々と言語化できる子ども                  異学年交流の中でリーダーシップを発揮し、大人の前でも自分の想いを言葉にして表現できる姿。</p> <p>◎今後の予定                  次回、学校運営協議会(振り返り・フィードバック会) 日時:2026年7月10日(金) [予定] 13:00~ 場所:校内 図書館                  内容:この1ヶ月間の実践で「学校や子どもたちにどんな変化があったか」を、有志のメンバーも巻き込みながら共有・検証する。</p>
---